

中国の無形文化資源と伝統文化のアフリカへの伝播 —西アフリカの孔子学院を中心に—

尹 曼琳

人間社会環境研究科 博士後期課程 2年

1. 調査背景・目的

筆者は「文化資源学フィールド・マネジャー養成プログラム」(平成23年度第2期の派遣支援)の助成を受けて、「中国と旧英領西アフリカ:文化の軋轢とそれを乗り越えるための支援策」のテーマで、2012年初頭、ガーナとナイジェリアで中国企業労働者やさまざまなステークホルダーにインタビューを行うという現地調査を行った。その際に、中国政府がアフリカにおいても孔子学院を設置しており、その活動展開に積極的であるという動きを捉えることができた。

孔子学院とは、中国国家対外漢語教学領導小組弁公室の監督・指導の下で、中国の高等教育機関と外国の教育機関の双方が共同運営する「非営利教育機構」である。例えば、本研究で対象とするトーゴの孔子学院は中国の四川外国語学院とトーゴのロメ大学が、ベナンの孔子学院については中国の重慶交通大学とベナン

のアボメカラビ大学が共同で運営している。無形文化資源である中国語と中国の伝統文化の教授を通じて、世界の中国への理解を深めることを主旨とする。孔子学院が提供するサービス内容は、中国語教育、中国語教師の育成、中国語教育のための資源の提供、中国語試験の実施、中国語教師資格の認証、中国教育・文化などのコンサルティング、中国・海外言語文化交流活動である。孔子学院については中国の高等教育機関が関与するのに対して、主に中学校・高等学校を中心に活動が展開されているものは孔子課堂と呼ばれる。今回は孔子課堂については触れず、孔子学院のみを研究対象とする。

2004年にソウルで初の孔子学院が設立されたことを皮切りに、世界各地に続々と学院は設立されている。2012年時点で、既に世界106カ国・地区に総計835校の孔子学院・孔子課堂が設立された¹⁾。最も多く設置されているのはアメリカで、411校、全体の49%を占めており、それに次ぐのは、ヨーロッパであり、続いて、アジア、オセアニア、アフリカ大陸の順となっている²⁾。このうち、アフリカ大陸については、図1にみるように、2012年10月時点で、アフリカ22カ国に、25校の孔子学院と5校の孔子課堂が設立されている。

筆者は、アフリカに設立された孔子学院は、中国とアフリカの間にはびこる文化軋轢を乗り越え、その融合を実現する役割を果たしていると考えている。なお、孔子学院が初めて設立された2004年から現在まで約8年しか経っていないため、孔子学院に関するまとまった研究はまだ少なく、また、その多くは中国語でかかれたものに集中している。このように限られてはいるが、孔子学院を扱った研究の主な対象は主に二つに分けられる。1つは中国語教育、人材育成、教科書の編成などを中心とする対外中国語教育に関するものであり、もう1つはソフトパワー³⁾形成、中国文化の海外への伝播、文化外交といった国際関係学の分野である。しかし、孔子学院が文化軋轢を乗り越え、

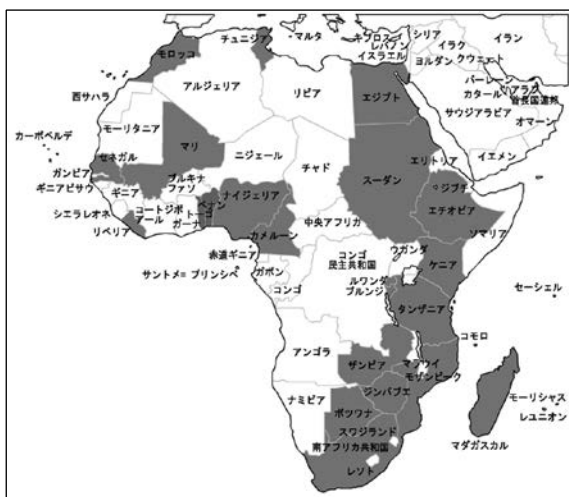


図1 孔子学院・孔子課堂のアフリカ大陸における分布(筆者作成)

注:色塗り部は孔子学院・孔子課堂が設立されている国を意味する。

その融合を実現する役割を分析する研究はまだ存在しない。また、孔子学院の事例研究については、アメリカ、日本、フランスといった先進国が中心であり、途上国、とりわけアフリカ地域についての研究は極めて少ない。

そこで、先行研究でまったく調査対象となっていない西アフリカのトーゴとベナンにある孔子学院を具体的に取り上げ、主に中国政府が、どのように無形文化資源である中国語および中国の伝統文化を西アフリカに伝播させようとしているのか、および孔子学院で中国語と中国文化を勉強している学生たちの帰属と、彼らの学習動機を明確にして、間接的に中国のアフリカにおける影響力を明らかにすることが本研究の目的である。なお、本報告書締切日時点で筆者のフィールド調査はまだ終了していないこと、紙幅の関係と、別稿で調査内容を発表する予定であること、また、本助成金はフィールド・マネジャー養成を目的としたものであることから、本報告では、トーゴおよびベナンにある孔子学院の調査内容の一部と、筆者が西アフリカのフィールドリサーチをどのように実施したのかについて、筆者の感想も踏まえながらまとめたい。また、付録で本研究に用いたアンケート（フランス語版）用紙を添付している。

2. 派遣日程・訪問先

具体的な派遣日程は表1のようになる。本研究ではトーゴとベナンを調査の対象としているが、フィールド調査の拠点はガーナに置いた。理由は、前回滞在したガーナの方に土地勘があり、知り合いも多いこと、また、筆者は全くフランス語ができないこと、ガーナの方がアジアからアクセスしやすいことである。実際、ガーナは国としても、経済規模としてもナイジェリアと並ぶ西アフリカの大国のひとつであり、現在のところ、まだ孔子学院は設立されてはいないが、その動きはある。また、トーゴやベナンとのアクセスもよく、渋滞や出入国手続き上の問題にみまわれなければ、首都アクラからトーゴの首都ロメにはバスで4時間、ベナンの首都コトヌーには6時間程度でたどり着くことができる。

日本を2012年12月30日に出発してから北京経由でガーナに2013年1月2日に到着した。その後、調査準備をして、1月8日にアクラからベナンに向けて出発した。ところが、ガーナとトーゴの国境で1時間

ほどガーナの出国手続きとトーゴの入国手続きに要し、ロメに着いた時点で疲労困憊していた。気温が高いことも原因の一つである。そこで、ロメでとりあえず一泊することを決意した。たまたま国境で知り合った中国人のビジネスマンが紹介してくれた中国人がロメで経営しているホテルに泊まることにした。中国人が経営しているホテルの値段はやや高かったが、筆者はフランス語が話せなく、またロメも全く初めてなので有益な情報が得られることも期待しての選択だった。そして、結局、先にトーゴで調査を行ってからベナンへいくことにした。

なお、ここでアクラからロメへの移動および国境での手続きなどを簡単に紹介したい。この部分はネットでの資料が少ないことから、後に続く者の参考になると思われる。ただし、制度は日々変化しており、実行する前に必ず確認して頂きたい。アクラの大市場(Accra Central) 近くの長距離バス STC (State Transport Company) の乗り場で毎朝ロメ国境に向けてバスが発売している。値段は10セディ(約400円)である。

表1 派遣日程

日付	内容
2012年12月30日	移動、金沢—大阪—北京。
2013年1月1日	移動、北京—ドバイ。
2013年1月2日	移動、ドバイ—アクラ。
2013年1月3日—7日	ガーナにてトーゴ、ベナンへの渡航準備。
2013年1月8日	移動、アクラ—ロメ。
2013年1月9日—11日	ロメ大学孔子学院の学生を対象に対面アンケート調査を行った。
2013年1月12日	移動、ロメ—ベナン国境—アクラ。
2013年1月13日—14日	資料整理。
2013年1月15日	アクラにてベナンビザを取得後、移動、アクラ—ロメ。
2013年1月16日—17日	ロメ大学孔子学院の学生を対象として、対面アンケート調査を行った。
2013年1月18日	移動、ロメ—コトヌー。
2013年1月19日—22日	アボメカラビ大学孔子学院の学生たちを対象に対面アンケート調査を行った。中国文化センター(コトヌー)にて無形文化資源である中国語と中国伝統文化をどのようにアフリカに伝えているかインタビューを実施。
2013年1月23日	移動、コトヌー—ロメ—アクラ。
2013年1月24日—31日	資料整理と本報告書作成。
2013年2月1日—2月17日	資料整理、孔子学院が設立される予定のガーナ大学の中国語クラスに同様のアンケートを配布する予定。
2013年2月18日	移動、アクラ—ドバイ。
2013年2月20日	移動、ドバイ—北京。
2013年2月22日	移動、北京—大阪—金沢

しかし、筆者は隣の場所から発車する乗り合いタクシーを選択した。4人（助手席1人、後部座席3人）の乗客で一人あたりは15セディ（約600円）である。値段は高いが、毎日一本しかないバスより本数が多く、所要時間も短く、人気がある。国境でのガーナ出国の手続きは、入国登録書と同じものを書いた後で、カメラ撮影、出国許可のスタンプを押してもらって終わりである。続いて、トーゴの国境管理局で国境ビザを申請した。1ページの申請書を書いてから、10000セファ（約1600円）を支払って、その場で5日間のビザをとった。申請書はフランス語で書く必要があるため、手伝ってくれた人に5セディ（約200円）のチップを渡した。この国境ビザを持って、ロメ移民局で申請書（500セファの用紙代を支払う必要がある）を書いて、2枚のパスポート写真を添付して、翌日に無料で有効期間1ヶ月のマルチビザがとれる。仮に日本でトーゴのビザを申請したら、さまざまな書類を揃えなければならない上に、4000円の手数料がかかるはずであるから、国境での取得の方が手間が少なく安上がりである。

さて、ロメ大学の孔子学院での調査を1月9日から開始したが、実は順調には進まなかった。一つは、孔子学院の中国人院長が出張中でロメにいなかったことがある。そこで、トーゴ人院長に筆者の目的と調査用アンケートを説明してから、ロメ大学の学長に許可をもらえないかと頼んだ。しかし、すぐに許可は出されなかった。孔子学院は中国と海外高等学校によって共同設立され、双方が共同で設立した理事会の下で院長責任制を実行している。したがって、原則として、院長は、現地人院長と中国人院長1人ずつの計2人であり、この2人の院長が孔子学院の日常の運営を管理している。つまり、トーゴ人院長は単独で物事を決めることができない立場にある。そこで、筆者は孔子学院の理事会で重要な役割を担当するロメ大学の学長に許可をもらうことを考えた。しかし、フランス語が話せない筆者にとってそれは言うほどに簡単なことではない。そこで、現地で知り合った簡単な中国語が話せるトーゴ人に頼んで、筆者の自己紹介と調査目的と内容をフランス語で書いてもらい、さらに英語の在学証明書などを学長の秘書に提出した。もらった返答は「金曜日（つまり、1月11日）にきてください」である。そして、実際には、調査許可がでたのは次の週の月曜日であった。

もちろん、筆者は、調査準備段階ですでにロメ大学

孔子学院の中国人の院長に、現地で調査をさせて欲しいというメールを送っていた。しかし、返信がなかったため、続いて現在中国に帰国している元トーゴの孔子学院の中国語教師と連絡をとった。その際、孔子学院はセンシティブなトピックであるため、院長は一切外部からの調査を受け入れないかもしれないと言われていた。実は、このことも先にベナンで調査を行いたいと考えていた理由の一つである。事前にコンタクトした際の感触から、ベナンの孔子学院での調査は問題ないと感じていた。そこでベナンの調査を先に行い、その後で、トーゴの関係者を紹介してもらおう方がやりやすいと考えたのである。

しかし、筆者は先に述べた理由で、トーゴでの調査に先に着手してしまった。本報告書での締切も迫っている。ここで早く調査成果を出さないと落ち着かない焦りもあった。そもそも、事前に準備したアンケートは孔子学院の学生に配布するものであるため、彼らが筆者を助けることを望むのであれば、孔子学院の許可は必要ないであろうと考えた。そこで、筆者は先のトーゴ人の友達の助けを得て、学生食堂と教室がある建物の外で待機して、孔子学院の学生にアンケートを配布した。ロメ大学孔子学院の中国語クラスは朝のクラスと夜のクラスがあるため、丸一日の調査になった。耐えられない暑さの中で大変な作業であった。丸一日一人ずつに対面式のアンケート調査を実施して、結果、23人分のアンケートを集めることができた。とてもうれしかった。ところが、翌日、トーゴ人院長が筆者を助けた友人に直接電話をし、学長の許可無しにこうした行為をしてはならないと注意を受けた。不可解であったが、友達に迷惑をかけられないため、調査を中断し、許可を待っている間にベナンで調査をしようと考えた。

事前に中国人の友達から得た話、および日本人が書いたブログによると、ベナンの国境でも、トーゴの時と同様に2日間の入国ビザがとれるということであった。しかし、結局、国境についた後に、そうした制度はないことが判明した。ベナン国境管理局で担当者に聞いてみたが、その制度は去年から変わったということである。日本人が書いたブログの内容は確かに2011年以前の内容のものであったが、実際、数日前に2人の中国人が国境で2日間のビザを作ったことを知っていた。なんだか不思議な感じがした。トーゴ側の国境に戻って、何人かの中国人の友達にもう一度確認すると、「適当にチップをあげよう」といわれた。



写真1 乗り合いタクシー（筆者撮影）

どこでも賄賂がみられるアフリカでは、中国人ビジネスマンたちが、お金を使ってこうしたことをやるのは習慣になっているのであろう。しかし、中国とアフリカの関係を研究している筆者にとって、それはどうしてもやってはいけないことのように感じた。

ロメ市内からベナン国境へは車で1時間ほどかかる。ロメ市内の市場から乗り合いタクシーを見つけた。既にガーナで乗合タクシーの経験をした筆者は、今回助手席を選んだ。運転手に値段を聞いたら、1000 セーフター（160 円）という。非常に安い、ほかの人の経験談では 3000 セーフターということであった。なんだかおかしいと思った。果たして、出発してみると、助手席には 2 人、後ろに 4 人乗せるということであった。倍の料金を支払って一人で座ろうかとも考えたが、こういう経験はなかったため、どういう気持ちと感覚であるかやってみようという気持ちになった。つまり、運転席と助手席の間に座ることになった。こういう座り方に慣れていないため、1 時間ほどの腰痛に耐えてようやくベナン国境に辿りついた。今後は絶対 1 人で座ると心の中で決意した。

こうしてベナン国境にたどり着いたが、先に述べたように、ベナンに入国することができなかった。そこで再びロメ市内に戻ってベナンのビザを取るべきか、ガーナに戻って、気持ちを整理した上でベナンのビザをとろうか長い時間考えあぐねていた。その時、ガーナの官僚の一人と知り合った。彼は、仕事でナイジェリアの会議に参加した後の帰路の途中であった。ベナンに入国できない状態の筆者の境遇を気の毒に思ってくれたのかもしれないが、彼の車に同乗させてもらえることになった。秘書なども伴ったグループであっ

たことから、安全面は間違いないと判断した。結局、アクラに戻ることにした。

気持ちと荷物をもう一度整理し、アクラにあるベナン大使館で 15 日の午前中（9 時から 11 時まで）にビザ申請資料（パスポート、パスポートの写真ページのコピー、パスポート写真 2 枚、申請書 2 部）を提出して、午後（2 時から 3 時まで）にビザが発給された（2 週間 40 セディ、1 カ月 80 セディ、3 カ月 120 セディ）。ベナンのビザ申請書はフランス語と英語の両方で書いてあり、大きな問題はなかった。わからないことがあれば、受付の女性が優しく助けてくれた。これは今まで体験したこととなんだか違っている感じがした。さらに、ベナン大使館には昔中国の北京大学で修士号を取得した官僚がいた。彼はもっと中国語を学びたい、これから国費で再び中国へ留学したいと話してくれた。中国のアフリカにおける存在感は強いと感じた。

偶然、ベナン大使館にいく前日にロメ大学孔子学院の友達から、ロメ大学の学長が筆者の調査を許可したという連絡があった。そこで、ベナンビザをとったその日に再びトーゴへ渡航した。学長の許可があるため、今回の調査は非常にスムーズに行えた。そして、その終了後、18 日にベナンに渡航した。

ベナンも全くはじめてのフランス語圏の国であったが、これまでのフィールドワークの経験を活かして調査を行った。国境を越えた後、乗り合いタクシーを見つけて、2 時間ほどでコトヌー市内のドバ市場についた。しかし、アボメカラビ大学孔子学院はコトヌー市内にないため、先にもう一つの調査地中国ベナン経済貿易発展センターを訪問した。そのセンターの担当者に自己紹介および調査目的などを説明したところ、内部の人専用の寮に低料金で泊めてもらえることになった。そこからアボメカラビ大学孔子学院に行くにはバイクタクシーで 40 分ほどかかるが、なんだかかほっとした。もう一つ幸いなことに、中国ベナン経済貿易発展センターから中国文化センターへはバイクタクシーでたった 5 分ほどの距離であった。中国文化センターは中国大使館文化部が建設したセンターであり、中国と現地の文化交流の要である。ここでも、孔子学院の教育を提供しており、孔子学院の先生たちが学生たちに中国語を教えている。つまり、偶然宿泊することになった場所は調査に極めて便利な場所であった。特にベナンでは、多くの中国人が筆者の面倒をみてくれた。彼らの助けがなければ調査は困難であったに違いない。



写真2 ロメ大学孔子学院が入居している建物（筆者撮影）



写真3 ロメ大学孔子学院が所在するロビー（筆者撮影）



写真4 ロメ大学孔子学院の図書館（筆者撮影）

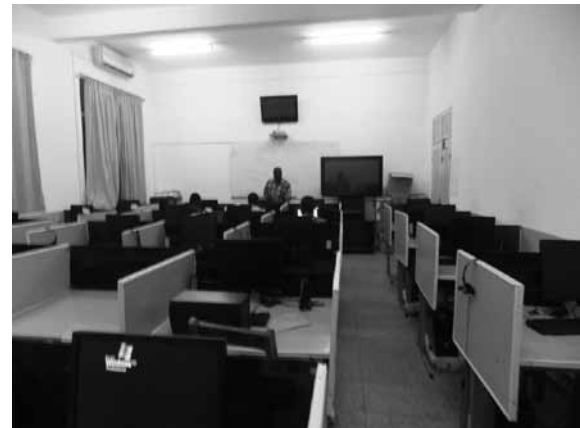


写真5 ロメ大学孔子学院のメディア教室（筆者撮影）



写真6 学生がコンピューターを利用して中国語を勉強する様子（筆者撮影）



写真7 トーゴ人教師が中国語を教える様子（筆者撮影）



写真8 学生たちがアンケートに答える様子（筆者撮影）



写真9 学生たちがアンケートに答える様子（筆者撮影）



写真10 学生たちがアンケートに答える様子（筆者撮影）



写真11 学生たちがアンケートに答える様子（筆者撮影）

3. 調査先概要

ここでは、簡単にロメ大学孔子学院とアボメカラビ大学孔子学院を紹介したい。

3.1 ロメ大学孔子学院

写真2はロメ大学孔子学院が入居している建物を、写真3はそのロビー、写真4は孔子学院の図書館を示している。写真5は孔子学院のメディア教室を、写真6は学生がコンピューターを利用して中国語を勉強する様子である。続いて写真7はトーゴ人教師が中国語を教えている様子である。写真8から11は孔子学院の朝と夜クラスの学生たちがアンケートに答える様子を撮影した。ロメ大学孔子学院には2012年－2013年の学年暦で115名の学生が在籍しており、75人分の回答を集めることができた。

3.2 アボメカラビ大学孔子学院

アボメカラビ大学孔子学院には、中国語を大学の公の科目として選択した学生と、孔子学院と先述の中国文化センターで中国語を勉強している学生、総計2500人あまり（2012年－2013年の学年暦）の学生が在籍している。しかし、公の科目として選択した学生2000人あまりについては、今回は調査対象に含めていない。残りの孔子学院と中国文化センターで中国語を勉強している学生約300人のうち、50人からアンケートの回答が得られた。写真12と13それぞれは、アボメカラビ大学孔子学院が入居している建物と教室を示している。写真14は中国人教師が中国語を教える様子である。写真15はアボメカラビ大学孔子学院の学生たちがアンケートに答える様子を示している。

4. まとめにかえて

今回は筆者にとって2度目のアフリカ渡航であったが、フランス語圏のトーゴとベナンに渡航するのは初めてであった。今回接触したフランス語圏の人々は相対的に素直で、規則に従順で、賄賂を要求されること



写真 12 アボメカラビ大学孔子学院が入居している建物(筆者撮影)



写真 13 アボメカラビ大学孔子学院の教室 (筆者撮影)



写真 14 アボメカラビ大学孔子学院で中国人教師が中国語を教える様子 (筆者撮影)



写真 15 アボメカラビ大学孔子学院の学生たちがアンケートに答える様子 (筆者撮影)

もなかった。現在、調査はまだ継続中である。2月には、将来、孔子学院が設立される予定のガーナ大学の中国語クラスの学生たちに同様のアンケートを配布する予定である。

今回、中国語、日本語、英語、フランス語の四カ国語のアンケートを作った。なぜなら、まず、筆者は日本語で博士論文を書く予定であることから、また、指導教員と内容について議論するために日本語で作成する必要があった。その後、英仏両語に翻訳した。また、孔子学院の中国関係者に示すために中国語でも作成した。しかし、これは大変な作業であった。まず、言葉そのものを辞書で調べて翻訳しても、必ずしも筆者のイメージするものが示されるとは限らないということを知った。例えば、日本語の「自営業」という言葉には複数のニュアンスがあることを今回はじめて知った。日本語の「自営業」には、まず、誰にも雇われず、自分一人で働いているという意味がある。そこには、弁護士のような専門技能者から工事現場で日雇

いの仕事をするような専門性が低い仕事までもが含まれる。つまり、英語では Self Employed になるが、前者の意味を強調する際には、あえて Liberal Profession という言葉を用いた方が伝わりやすい。さらに、「自営業」には、事業主、つまり、従業員を何人か抱えているケースを指す場合もある。この場合、英語では Business Owner としなければならない。つまり、自営業といっても幅が広く、それを単純に辞書からみて Self Employed と訳してしまうと、Business Owner の意味が抜けてしまうことになる。このように、4言語で表された単語にはそれぞれが持つ微妙なニュアンスの違いがあり、これについて指導教員と何度も議論することになった。また、アンケートを作成する際には、多くの背景知識の蓄積がなければならないことも学んだ。例えば、アンケートには回答者の学歴を問う項目があるが、フランス語圏の教育課程の認定制度は英語圏の国のそれと全く異なり、かなり細かく分かれていることを知った。つまりアンケートを配布する国の教

育制度がわからないと、こうした質問の選択肢をうまく設定することができない。また、日本や中国と異なり、アフリカ人には2つの国籍を持つ人が少なくないとか、回答者の所得を聞くにあたって、国ごとの平均月収はいくらぐらいなのかといった知識も必要である。実際、プライドが高いといわれる彼らがそうした質問に正直に答えるような工夫も必要とされた。事前にこのような問題がわからないと、良いアンケートは作成できないと思う。指導教員の指導がなければうまくいかなかったと思う。また、本研究で使っているアンケートは出発する前日の深夜まで修正が行われた。印刷が完了した時には最終バスもなかったから、指導教員がタクシーで筆者を家まで送ってくれた。この場を借りて、指導教員・正木響先生に感謝の気持ちを述べたい。

2月の調査終了後、本研究の調査結果を分析して、来年度の日本アフリカ学会全国大会で発表する予定である。

謝辞

本プログラムのおかげで、筆者は2度、合計87日間の西アフリカ調査を実施することができた。一度目は、わからないことばかりで手探りの状態であったが、その時の経験が関心対象を絞り込むことに繋がり、本稿でみたような調査に結びついた。学生の身でありながら、このような贅沢な経験をさせていただけたのも、本プログラム責任者の中村慎一先生、鏡味治也先生、岩田礼先生のおかげである。ここに記して感謝の念をあらわしたい。

註

- 1) オンライン孔子学院のホームページ、<http://www.chinese.cn/>、2012年12月12日にアクセス。
- 2) オンライン孔子学院のホームページ、<http://www.chinese.cn/>、2012年12月12日にアクセス。
- 3) ソフトパワー (soft power) とは、経済と軍事優勢を利用して目的を実現するハードパワーに対峙する言葉で、文化・価値観・民衆意識などの影響力によって目的を達成することを意味する。1990年にアメリカのハーバード大学教授ヨセフィ・ナイ (Joseph Nye) が “Bound to lead. The changing nature of American power” で初めてソフトパワーの概念を示した。

付録 調査用アンケート (フランス語版)

**Questionnaire sur la motivation d'apprentissage et la catégorie des étudiants
de l'Institut Confucius en Afrique de l'Ouest**

Chère Mlle ou Mme / Cher Monsieur,

Bonjour ! L'objectif du présent questionnaire est afin de comprendre la motivation d'apprentissage et la situation principale des étudiants qui travaillent dans l'Institut Confucius en Afrique de l'Ouest, les résultats de cette enquête seront destinés uniquement à la réalisation de mes travaux de recherche. Cette enquête est anonyme, nous garantissons la confidentialité des renseignements personnels de tous les participants. En outre, afin de vous remercier pour votre précieuse participation, nous offrirons à tous ceux qui participeront à la présente enquête un petit cadeau . Nous attendons votre participation!

Kanazawa University Programme de Doctorat
Manlin Yin, janvier 2013

- ① **Votre sexe** A masculin B féminin
- ② **Votre âge**
A 0-9 ans B 10-19 ans C 20-29 ans D 30-39 ans E 40-49 ans
F Plus de 50 ans
- ③ **Votre nationalité (S'il y a plus de 2, sélectionnez tous)**
A Togo B Benin C Ghana D Burkina Faso E Nigeria F Niger
G Autres _____
- ④ **Votre diplôme final**
A CEPD (Togo) ou CEP (Benin) B BEPC
C CAP ou BEP D BAC Technologique/Professionnel
E BAC Général F BAC+1
G BAC+2 H Licence (ou BAC+3)
I BAC+4 J Master (ou BAC+5)
K Au dessus de master (BAC+5 et plus) L Sans certificat/diplôme
M Autres _____
- ⑤ **Votre profession actuelle**
A Etudiant(e) B Propriétaire de l'entreprise C Employé(e) D Cadres
E Chômeur(se) F Retraité(e) G Fonctionnaire
H Enseignant(e) I Femme au foyer (Homme au foyer) J Autres _____
- ⑥ **Votre revenu mensuel?**
A 0-26500CFA (0-50 dollars) B 26500-53000CFA (50-100 dollars)
C 53000-79500CFA (100-150 dollars) D 79500-106000CFA (150-200 dollars)
E 106000-132500 CFA (200-250 dollars)
F 132500-159000 CFA (250-300 dollars)
G 159000-185500CFA (300-350 dollars)
H 185500-212000CFA (350-400 dollars)
I 212000-238500CFA (400-450 dollars)
J 238500-265000CFA (450-500 dollars)
K 265000-530000CFA (500-1000 dollars)
L Plus de 530000CFA (Plus de 1000 dollars)
- ⑦ **Avez-vous un ordinateur ?** A Oui B Non
- ⑧ **Avez-vous une voiture chez vous ?** A Oui B Non
- ⑨ **Quel est le niveau des cours de chinois que vous suivez dans l'Institut Confucius ?**
A Classe d'introduction B Classe élémentaire

C Classe intermédiaire D Classe avancée E Autres

⑩ A part les langues africaines, savez-vous parler d'autres langues ?

A Anglais B Français C Portugais D Espagnol E Italien F Allemand
G Arabe H Autres _____

⑪ A part le chinois, voulez-vous apprendre d'autres langues?

A Anglais B Français C Portugais D Espagnol E Italien F Allemand
G Arabe H Autres _____

⑫ Les autres regions/ pays que vous avez été à part l'Afrique et la Chine?

A Aucun B Europe (fois) C Amérique du Nord (fois)
D Moyen Orient (fois) E Inde (fois)
F Autres (Ecrivez le nom du pays s'il vous palit) _____ (fois)

⑬ Il y a combien de fois que vous avez été en Chine ? (Si vous choisissez A, continuez avec→⑮、 si vous choisissez autres, continuez avec→⑭)

A 0 B 1 fois C 2 fois D 3 fois E 4 fois F Plus de 5 fois

⑭ Quel est l'objectif de votre voyage en Chine ?

A Voyage touristique B Relation commerciale,business ou voyage d'observation
C Voir les amis ou la famille D Faire les études E Autres_____

⑮ Pourquoi vous apprenez le chinois à l'Institut Confucius ? (Choisissez la raison la plus importante)

A Pour faire les études en Chine B Pour le travail actuel
C Pour travailler dans une entreprise chinoise en Afrique
D Pour améliorer le niveau linguistique E Pour mieux connaître la Chine
F Pour faire du commerce avec les Chinois G Pour voyager en Chine
H Pour trouver un emploi en Chine I Autres_____

⑯ Depuis combien de temps que vous apprenez le chinois ?

A 0-3 mois B 3-6 mois C 6-12 mois D 1-1.5 ans E 1.5-2 ans
F 2-2.5 ans G 2.5-3 ans H Plus de 3 ans

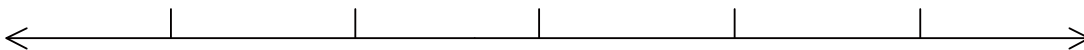
⑰ Participez-vous à des cours et des activités sur la culture chinoise ?

A Oui, parfois B Non, jamais

⑱ Avez-vous des amis chinois ? A Oui B Non

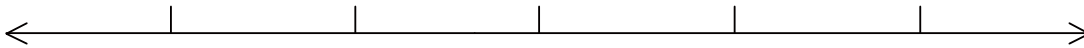
⑲ Aimez-vous la Chine ?

A Beaucoup B Oui C Je ne sais pas D Pas beaucoup E Non



⑳ Etes-vous satisfait(e) de la situation d'enseignement actuel de l'Institut Confucius ?

A Beaucoup B Oui C Je ne sais pas D Pas beaucoup E Non



Avez-vous des propositions à donner à l'Institut Confucius ? Merci de les écrire ci-après :

Merci de votre participation!